

施策 5 教育の質を高める環境の充実

	【項目】	【説明】
指標1	研修目標達成度（5段階評価）	経験者研修及び専門研修ごとの研修目標達成度の平均（5段階評価）
	単位	実績値
	現在値 (R1)	R2 R3 R4 R5 R6 R7
	— 4.1	— 4.4 4.5
	担当課評価	
【担当課】 学校管理課 教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・教職員に求められる資質・能力を確実に育成するため、キャリア段階に応じた適切な研修を実施しました。研修効果や働き方改革等の観点を踏まえ、従来からの対面・集合型研修に加えて、オンライン研修（同時双方向型・オンデマンド型）も取り入れて実施しました。 ・今後も、効果的な研修内容・研修方法について検討し、教職員の資質・能力を高めることができるようにします。 	
指標2	勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合	勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合
	単位	実績値
	現在値 (R1)	R2 R3 R4 R5 R6 R7
	% 77.7	77.2 78.2 78.0
	担当課評価	
【担当課】 学校管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗はあまり順調ではありません。 ・今後は、本市の「学校における働き方改革基本方針」に基づき、保護者や地域の方の理解を得ながら、具体的な改善策を講じていきます。 	
指標3	市立川越高等学校の生徒、保護者の満足度	生徒、保護者への学校評価アンケートにおける「入学して（させて）よかった」と回答した割合
	単位	実績値
	現在値 (R1)	R2 R3 R4 R5 R6 R7
	% 85.7	94.9 89.0 89.7
	担当課評価	
【担当課】 市立川越高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗は順調です。 ・年度により実績値の変動はあるものの、満足度の実績値は現在値に比べ向上しています。 ・目標値に少しでも近づくよう、引き続き、生徒や保護者の意見を聞き、市立川越高等学校の満足度向上に努めます。 	
指標4	市立特別支援学校のセンター的機能を活用した学校の割合	各市立小・中・高等学校（小32校、中22校、高1校）が市立特別支援学校のセンター的機能を活用した割合
	単位	実績値
	現在値 (R1)	R2 R3 R4 R5 R6 R7
	% —	7.2 52.7 49.1
	担当課評価	
【担当課】 教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗はあまり順調ではありません。 ・令和4年度も前年度同様、特別支援教育コーディネーターの専門性を生かし、センター的機能を活用できましたが、中学校に比べて小学校での活用が低いので、小学校への周知がより必要です。 ・市立特別支援学校からも積極的に情報を発信し、各市立小・中・高等学校とのつながりを深めながら、さらに、各学校が市立特別支援学校のセンター的機能を活用できるようにします。 	

施策 5 教育の質を高める環境の充実		総合評価
		B
総合評価について	<p>全体として進捗はおおむね順調であり、評価もおおむね良好です。指標2の「勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合」については、進捗はあまり順調ではありませんが、令和4年度に「学校における働き方改革基本方針」を策定し、基本方針に基づいた教職員の働き方改革を進めています。また、「川越市部活動の在り方に関する方針」を改訂し、始業前の活動を原則行わないようにするなど、部活動顧問の負担軽減が図られる取組を行っています。今後もより目標値に近づけるよう、教育の質を高める環境の充実のための取組を実施します。</p>	
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革において、教職員の在校時間を把握することは重要であるが、在校時間の削減のみにとらわれることなく、教職員が健康で笑顔で子ども達と向き合い、意欲を持って働き、その結果として教育成果を引き出していくという視点を忘れないで取り組んでいただきたい。 ・インクルーシブ教育システムの構築を推進していく中で、市立特別支援学校のセンター的機能の充実は重要と考えるが、ソフト面の充実のみではなくハード面の充実も併せて取り組んでいただきたい。 ・市立川越高等学校の新たな取組として、令和5年度から公募校長を採用して学校運営を行っているが、今後の魅力ある学校づくりに向けて公募校長の高いリーダーシップのもと市立川越高等学校の活性化・特色化の推進に引き続き取り組んでいただきたい。 	

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	①教職員研修の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の経験段階に応じ、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修や管理職研修などを核とした経験者研修の充実を図ります。 学習指導要領への対応や様々な教育課題に対応するため、教員の専門的スキルを高め、授業改善につながる専門研修の充実を図ります。 教育者としての使命感、責任感を持ち、指導力のある意欲的な教員を育成するための研修を充実させるとともに、服務規律を守り、倫理観の向上を図るための研修を実施します。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 経験者研修 14講座 488名 専門研修 19講座 267名 全経験者研修において教職員の不祥事防止を徹底するための研修を実施 専門研修内において、川越市小・中学生学力向上プランの具現化を目指した授業スタンダード研修会を実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の「教員等の資質向上に関する指標」に基づき、教職員の経験段階に応じた研修内容を計画し、実施することにより、おおむね順調に進捗しています。 令和4年度より、特定研修に川越市独自の「ふるさと学習推進研修会」を加え、各学校に対して、児童生徒のふるさと川越への愛着・誇り等を育成する学習の推進を行っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の指標が新しく「校長及び教員としての資質向上に関する指標」となり、より一層教職員の経験段階に応じた研修を実施していく必要があります。 引き続き川越市の課題である学力向上に重点を置いた研修を実施していくことが求められます。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 県の「校長及び教員としての資質向上に関する指標」を参酌し、教職員の経験段階に応じた研修を実施していきます。 川越市小・中学生学力向上プランの授業スタンダードをより多くの教職員に定着させるとともに、それぞれの専門的スキルを高めるために、教科等の特性に応じた研修を計画し、実施します。 		

細 施 策	②中堅教職員・臨時的任用教員の育成	担当課	関連指標
		学校管理課・教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 若手・中堅教職員の教育に対する識見を高め、資質・能力の向上を図り、学校運営の推進者となる人材を育成していきます。 臨時的任用教員研修において、教職員の資質向上に関する指標を基とした研修を経験年数に合わせて計画し、臨時的任用教員の授業力を育成します。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 中堅教諭等資質向上研修 全7回 44名 臨時的任用教員研修 8回 (①全員参加 3回、②経験年数1～2年目及び希望者のみ参加 5回) 215名 (内②は67名) かわごえミドルリーダー研修 全9回 参加者(小・中)13名 研修評価達成度平均(5段階評価)4.6 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 中堅教職員に対しては、学年組織マネジメントや人事評価制度等、学校の中核を担う人材を育成する研修を実施しました。研修参加者について、教務主任・学年主任等のミドルリーダーを担う者が増加しています。 臨時的任用教員に対しては、全員参加の研修が3回、経験年数1～2年目及び希望者のみ参加の研修が5回あります。研修内容については、県の「教員等の資質向上に関する指標」に基づき、教員に求められる基本的な知識を学ぶことができる内容となっています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年主任や教務主任等の若年化を踏まえて、中堅教職員が学校運営の推進者となるよう研修内容を工夫し、改善する必要があります。 県の「校長及び教員としての資質向上に関する指標」に基づき、経験年数に応じた効果的な研修を計画し、教職員の資質・能力をさらに向上させる必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 中堅教職員は、県の「校長及び教員としての資質向上に関する指標」の深化・中核期に該当することを踏まえて、研修の指導者に実践経験豊富な講師や大学教授等を選定し、より質の高い研修となるようにします。 臨時的任用教員研修がさらに充実した研修となるように2年を1サイクルとして研修内容を計画し、教員としての基礎・基本を身に付けられるようにしていきます。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	③教職員研修の効果的な実施	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の負担軽減及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面型・オンライン型の研修方法により、研修内容に適した時期で研修を実施します。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対面・集合型研修 174回（全研修の67%） ・オンライン研修（同時双方向型・オンデマンド型） 81回（全研修の32%） ・中止 3回（全研修の1%） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度よりも、対面・集合型研修の割合が増え、感染症拡大防止に配慮しながら実施することができました。また、オンライン研修についても負担軽減の面から精査し、継続して実施しました。 ・研修によっては、オンライン研修オンデマンド型に変更し、研修実施期間内にいつでも受講ができるよう、学校・教職員の負担軽減を意識して実施することができました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修について、より研修効果を高める研修形態の工夫を検討する必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修を行うにあたっては、研修効果を考慮しながら、①目的、②内容、③形態の順で検討していきます。また、対面・集合型とオンライン研修を併せたハイブリット型研修といった新しい研修形態も取り入れます。 		

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	①勤務時間を意識した働き方の推進	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働き方について見直す機会となるよう、在校時間記録システムにより把握したデータを定期的に学校へ提供し、管理職を含めた教職員の意識改革を図ります。 ・「ふれあいデー」の設定を推進します。 ・保護者や地域に対して、学校における働き方改革に関する取組を理解してもらうよう周知します。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・在校時間記録システムにより把握したデータを各学校に提供 2回 ・在校時間等の客観的なデータを参考にした各学校における取組（日課表の工夫、行事の精選、ノー残業デー等の取組等） ・市立学校全校での「ふれあいデー」の設定 ・本市における「学校における働き方改革基本方針」を策定 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例校長会において、在校時間記録システムによる職員の勤務状況把握、状況に応じた教職員への働きかけについて周知しています。その結果、教員の意識も高まり、効率的な働き方ができるよう、各学校で工夫しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状においても、学校ごとに在校時間が長い教職員が数名おり、大きく改善されるには至っていません。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・校長に在校時間記録システムの具体的な活用方法を周知します。 ・学校における働き方改革に関する取組について、市ホームページや各学校の学校運営協議会等で、保護者や地域の方の理解が得られるよう、周知に努めます。 ・本市における「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の働き方改革を進めます。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	②事務負担軽減への取組	担当課	関連指標
		学校管理課・教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムを活用するなど、国や県、市で求める調査報告について効率化を図れるよう検討を進めます。 ・学校と教育委員会とが負担軽減についてともに研究する場をつくり、働き方改革を推進します。 ・学習指導案や教材等を関係者で共有し、教員の教材づくり等の授業準備に掛ける時間を削減し、事務の効率化を図ります。 ・教育委員会からの調査・照会業務の適正化（縮減）を行い、事務負担の軽減を図ります。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、専門性を持つ多様な職員と教員が協働し、「チーム学校」としての組織体制強化を図ることで、教員一人ひとりの負担軽減を図ります。 ・部活動の意義や発達段階を踏まえた指導が行えるよう、外部指導者の活用を含めた地域と連携した活動を推進し、部活動顧問の負担軽減と持続可能な運営体制の構築に努めます。 		
令和4年度の主な実績	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムを活用した学校からの提出物の削減（中学校における学習評定一覧） ・グループウェアを活用した調査等の回答方法の簡素化（回覧レポートやアンケート機能の積極的な活用） <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立中学校において、部活動指導を補助する地域人材登録 15校52名 ・市立川越高等学校において、部活動外部指導者導入事業による外部指導者 4名 ・「川越市部活動の在り方に関する方針」の一部改訂 ・川越市立中学校部活動指導員配置事業の整備 		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムやグループウェアを活用して、調査の簡素化、提出物の削減を図ることができました。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性が必要な部活動において、指導準備の助言等を受けることで、部活動顧問の負担軽減が図られています。 ・「川越市部活動の在り方に関する方針」を改訂し、始業前の活動（朝練習）を原則行わないようにし、部活動顧問の負担軽減が図られています。 <p>課題</p> <p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムやグループウェアについて、一部の職員における活用だけではなく、より多くの職員が活用できるようにする必要があります。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の意義を理解し、適切に指導をすることができる人材及び報酬に係る財源の確保が必要です。 ・多感な時期の中学生を指導するため、外部指導者と学校との連携の在り方の整理が必要です。 		
課題解決のための取組	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアを活用した事務の簡素化に向けた方法を、学校教育部内に広めていきます。 ・統合型校務支援システムを活用して、不登校及び不登校傾向と思われる児童生徒調査等、学校の事務負担軽減につながる取組を広げていきます。 <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県の動向を確認しながら、部活動指導員を含めた外部指導員を活用した指導体制を整えていきます。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	③悩みを抱える教職員のための支援体制づくり	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックを実施し、高ストレス者が産業医と面談できる体制を整えます。 ・ストレス状況を把握できるよう、セルフチェックシステムの活用を推進します。 ・様々な問題、課題に対して、教職員一人で悩み、問題を抱え込むことのないよう、気軽に相談できる支援体制を構築します。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・産業医との面談日を1日設定（面談実施者 3名） ・ストレスチェック実施対象者1,510名、実施者1,390名（91%） 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業医との面接希望者に対し、面接の場を設定し実施することができました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックは本人の希望により実施するものですが、自身のストレス状況を把握できるよう、更に実施率を高める必要があります。学校においては、相談しやすい体制を構築していく必要があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェックを実施し、産業医との面接を希望する者に対して、面接の場を設定・充実させていきます。 ・ストレスチェックの実施率が高まるように、対象職員への働きかけを校長に促します。 ・校長会等で、相談しやすい相談体制を構築するよう周知します。 		

【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	①市立川越高等学校の活性化・特色化の推進	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・オレゴン州にあるノース・セーレム高校との国際交流を通じて、グローバル化に対応したコミュニケーション力を身に付け、川越や日本のことをきちんと伝えることのできる国際人を育てます。 ・本市唯一の市立高校として、異校種や家庭・地域との連携を図りながら、創立100周年に向けて、時代の要請と市民の期待に応える魅力ある学校づくりを進めます。 ・一人ひとりの希望する進路に向けた確かな学力・技能等を培い、人生や社会の未来を切り拓くことのできる力を育みます。 ・普通科と商業に関する学科（情報処理科・国際経済科）の3学科併置校としての特色を生かした教育活動の充実を図ります。 ・これまでの取組を継続し、部活動の活躍を通して学校の魅力を一層高めます。 ・多様な学びの機会を創造するため、市内4大学及び女子栄養大学との連携、地元企業や関係機関との連携を推進します。 ・市立川越高等学校のホームページをより充実させ、教育活動の内容や成果に関して適時に適切な情報を発信します。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科（普通科・情報処理科・国際経済科）35人の少人数学級編成を維持 ・普通科の生徒の大学・短大・専門学校等への進学率 94% ・情報処理科、国際経済科は全商検定3種目以上1級合格者 55名 ・部活動外部指導者を導入し部活動の充実 ・公募による校長（任期付職員）の採用 ・創立100周年に向けて川越市立川越高等学校教育審議会を開催 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月1日時点の県内中学校3年生対象進路希望状況調査で、市立川越高等学校普通科を希望する倍率は2.95倍（県内3位）となりました。 ・全商検定や日商検定の取得者が県内の商業系高校の中でトップクラスの実績を収めました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立100周年に向け、時代の要請と市民の期待に応える魅力ある学校づくりを進めるために積極的に本市の教育に参画しようとする人材を確保することが課題です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・公募により採用した校長の高いリーダーシップのもと、一人ひとりの希望する進路に向けた確かな学力や技能等を培う実学教育を重視し、将来、職業を通じて社会に貢献できる人材の育成を目指し、生徒の社会的自立を促していきます。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	②進路指導力向上のための教職員研修の充実	担当課	関連指標
		学校管理課・市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ Society5.0時代に対応した教育を実施するため、全ての教員がICTを適切に活用できることを目指します。 ・ 教員を大学進学予備校や民間教育機関の研修等に参加させ、その成果を校内に普及させることで大学等への進学指導力の向上を目指します。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立高等学校教員進学指導力向上研修を活用した、民間教育機関の研修を受講 2名（有料講習1名、無料講習1名） ・ 教員を対象にGoogle for Education研修、iPad利活用研修等を実施 3回 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法政大学、中央大学、日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学等へ合格しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が進路希望の実現に向けて、より高い目標に挑戦するようになることが求められます。 ・ ICT機器の活用スキルや意識が教職員により差があります。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学指導力向上研修を活用し、特に主要5教科の教員の指導力向上を図ります。 ・ 教員がICTを適切に活用できるよう、引き続き研修等を実施します。 		

細 施 策	③中学校・市立川越高等学校連携の推進	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立川越高等学校の取組を市立中学校に広く周知するために、引き続き研究委嘱校を設定し、支援していきます。 ・ 商業に関する学科との連携など、市立川越高等学校の特色を生かした連携方法について、研究していきます。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寺尾中学校、鯨井中学校、富士見中学校とのICTを活用したオンラインでの生徒間交流（進路選択アドバイス）を実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した生徒間交流を募集し、中学校3校との校種間連携を行いました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 希望する多くの中学校との校種間連携を進めることが重要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校に募集をする時期を早め、連携の趣旨を理解した上で申し込むことができるように希望する多くの中学校と校種間連携の拡大を目指します。 		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	④市立川越高等学校教育環境の整備・充実	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備面からも教育力の維持向上を目指し、より安全で快適な教育環境を整備するため、計画的に改修を進めます。 情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、ICT環境を一層整備していきます。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 第1総合実践室等の空調設備改修工事 トイレ改修工事設計業務委託 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 「川越市立川越高等学校大規模改修方針」に基づき、計画的に改修工事を実施しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営に影響がないよう改修工事を行う必要があります。 1人1台の学習者用コンピュータの円滑な導入に向けたネットワーク等の環境整備が課題です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営に支障が生じないよう計画的に改修工事を行います。 1人1台の学習者用コンピュータについて整備を進めます。 		

【施策の柱】 (4)市立特別支援学校の充実

細 施 策	①市立特別支援学校の整備・充実	担当課	関連指標	
		市立特別支援学校	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市立特別支援学校の教育活動が円滑に進められるようにするために、教育環境の整備・充実に向けた支援体制の充実を図ります。 卒業後「ひとりだちする生徒」を目指し、基礎的な知識、理解の定着を図るとともに、個人及びグループで適切に作業に取り組める能力の育成を図ります。 生徒一人ひとりに応じた進路指導、援助を計画的、組織的、継続的に推進します。 卒業後の職場定着のために、卒業後3年間支援します。 ICT機器に触れ、活用する力を育成します。 			
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 教科別の指導「国語」「数学」の習熟度別授業の実施 産業現場等における実習（現場実習）、「職業」の計画的な実施 卒業生アフターフォローの実施 35件（企業訪問25件・電話相談10件） 教育活動に合わせた学習者用コンピュータの活用 ※年間を通して8割程度の活用（主に理科・進路・道徳・外国語など） 			
成果実績	項目名（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	保護者アンケートで「入学させてかなりよかった」「入学させてよかった」と答えた割合（％）	95.5	97.7	95.8
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業や実習、卒業生へのアプローチは昨年通り実施しました。 ICTを活用した授業について学校研究として取り組み、教職員の指導スキルを向上させるよう努めています。 卒業後社会の一員となるために、必要なスキルについて体験を通して学び、生きる力の育成を図っています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別や少人数など、生徒の状況に合わせて指導形態を変えている教室が少ない状況です。 学習者用コンピュータのさらなる活用を深める必要があります。 学習者用コンピュータ（教職員用の端末）が学年2台であるため、活用が活発になればなるほど、教材研究等に支障が出てきています。 			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 黒板や教室の大きさなどに課題があるものの、特別教室を教室の代わりに利用していきます。 教員間で効果的な端末利用を工夫するとともに、引き続き端末の台数を増やすことも検討します。 			

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (4)市立特別支援学校の充実

細 施 策	②市立特別支援学校のセンター的機能の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割を担えるよう支援体制の充実を図ります。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーター及び教頭による学校訪問での教育相談等 36件 夏季休業中及び年度末の市立特別支援学校職員による中学校訪問 22校(市立中学校全校) 異校種体験受入 11名(小学校4名、中学校7名) 特別支援教育コーディネーター及び教頭が、市の研修会で講師として講義・演習を実施 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒観察とは別の日にフィードバックを行うことで、きめ細やかな教育相談が実施できています。 中学校では積極的に市立特別支援学校のセンター的機能を活用しています。 特別支援教育コーディネーターは専任ではないため、学校訪問等を行う時間が限られています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校のコーディネーターは、同校のセンター的機能の中核を担うべき立場を求められるため、教育相談や特別支援教育に精通した人材の育成が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校では、今後も、中学校訪問や異校種体験受入、研修会等への講師派遣などを継続します。 特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを複数人指定し、管理職が相談内容等に応じてコーディネーター業務を振り分けることで、センター的機能の充実を図ります。 		